

学 位 論 文 要 旨

氏 名 寺戸 武志

題 目 いじめ防止に資する児童生徒の資質・能力の育成プログラムの検討

1. 研究の目的

児童生徒を対象としたいじめ未然防止に資する心理教育プログラムの実践には、教員のスキル、時間の確保といった教員や学校における適用上の課題が指摘されている。そこで、本研究は、実施時間数による教育課程上の支障が少なく、実施に際する教員の心理教育に関する知識やスキルの習得を容易にし、簡便に使用できるような小・中・高校生を対象とした、エビデンスに基づくいじめ未然防止に資する新たな心理教育プログラム（以下、本プログラム）の開発、並びに適用の検討を行うことを目的として実施された。

2. 研究の概要

(1)いじめ未然防止の必要性と本プログラムの開発指針の検討（第1章～第2章）

第1章では、本邦におけるいじめの現状を概観したのち、先行研究からいじめによる影響、いじめの構造の整理が行われ、いじめを未然に防止するための心理教育プログラムの必要性が考察された。

第2章では、先行研究からいじめ未然防止を目的とした心理教育プログラムの視座が検討され、いじめに直接的に関連する内容ではなく、いじめをしない、させない、見逃さないための資質・能力を育むことが有効であるとの結論が得られた。これをもとに本プログラムの開発指針が明示された。

(2)いじめ未然防止に資する資質・能力の検討と尺度作成（第3章～第4章）

第3章では、いじめ未然防止に有効な具体的な資質・能力についての調査が行われた。その結果と先行研究の理論知との比較による考察から、12種類の資質・能力が見出された。

第4章では、資質・能力を測定する尺度作成が行われ、その尺度を用いていじめ加害・被害・傍観行動との関連が調査された。その結果、12種類の資質・能力のうち「他者理解」は「思いやり」に収斂されて11因子にまとまり、信頼性・妥当性が確かめられ、この因子が示す11の資質・能力といじめの加害・被害・傍観行動との関連も見出された。これらより、この11の資質・能力の向上をねらいとした授業案を作成にすることが妥当であることが確認された。

(3)本プログラムの作成と実践（第5章～第6章）

第5章では、11の資質・能力の育成をねらいとした54種の授業プランが心理社会的な諸理論に基づいて作成された。さらに、実際に試作版を使用した教員の意見から得られた適用上の課題をもとにプログラム構成の検討が行われた。その結果、本プログラムは、「授業プラン」「特別活動プラン」「教師用映像補助資料」「CoCoLo-34/CoCoLo-J」をそれぞれの解説書とともに付属させたパッケージとし

てまとめられ、「いじめ未然防止プログラム」としてwebページ上に公開された。

第6章では本プログラムを用いた実践研究が行われた。小・中学校で本プログラムを実践した結果、質的・量的な両側面から11の資質・能力の向上に一定の効果が見出された。また、本プログラムを使用する教員の準備状況による効果への影響の検討がなされ、授業のねらいや展開の意図を十分に理解し、学級の実態に応じてプログラムに適切なアレンジを加えるなどの教員の主体的な取組の姿勢による影響が示唆された。これらの結果から、本プログラムは11の資質・能力の向上をねらいとした心理教育プログラムとして一定の効果が期待できるものであるということ、教員による授業案の十分な理解が効果に影響を与えることが示唆された。

(4)本プログラムの活用による可能性 (第7章)

第7章では、教員への聞き取り調査をもとに、いじめが起きたあとの対応場面における本プログラムの活用の在り方について検討され、事前の本プログラムの実施がいじめ対応の場面にも生かされる可能性が示された。また、本プログラムを実施した教員自身の「心理的かかわり」に変化が示され、本プログラムがその授業の体験による児童生徒への直接的な効果だけでなく、実践した教員自身の児童生徒へのかかわり方の変化による間接的な効果への可能性が示唆された。

(5)本プログラムの位置づけの整理 (第8章)

第8章では、国内外の様々な心理教育プログラムにおける本プログラム位置づけの検討をもとに、本プログラムの特徴が考察された。その結果、本プログラムはSELのフレームワークに準拠した構成を有するいじめ未然防止に焦点化した心理教育プログラムであり、付属の「教師用映像補助資料」により実施教員の自己研修の支援がなされていること、「CoCoLo-34/CoCoLo-J」のアセスメントツールにより客観的データをもとに1コマ単位で選択して利用できたり取組の評価が行えたりすること、「特別活動プラン」により般化に向けた支援がなされていること、web上ですべてのコンテンツが無料でダウンロードでき簡便に使用できることが特徴として見出された。

(6)総合考察と提案 (第9章)

第9章では、総合考察として、エビデンス及び学校の実装可能性の2つの観点から本プログラムの評価が考察された。また、学校における実践方法の提案がなされるとともに、本研究の課題と展開についてまとめられた。